

てもよい。

お菓子と蟻

座敷の庭に、お菓子のほんとに小さいかけらが落ちてゐましたの。

蟻のおぢさんが、それを見つけて、そつとほつて見ました。

「ウン、これはたしかに、うまさうだ。」

それから、そつとなめて見ました。

「ウン、これはすてきにあまいぞ。」

それから、おぢさんはそのお菓子の上のつかつて、その大きさを調べてみました。すると、蟻のおぢさんよりずつとく大きいのです。

「オ、これはずるぶん、大きいな。」

それから、せめて轉してでも歸らうと、おぢさんは、力を入れて「ウンと押せ」「ウンと押せ」と

やつて見ましたがピリツとも動きません。

「これや、ひとりでは大變だ、皆を呼んで來やう。」

と、いつて大いそぎくゞで御殿に知らせにかへりました。すると、一番に、お菓子のところにまで大いそぎに來たのは蟻の子供等でした。お菓子を見てびつくりしました。

「おぢさんのいつたのはこれだね。」

「うまさうだな。たべられるかしら。(なめて見る) うまいくゞ。すてきだな。」

「うまいかい。(なめて見る)。やあ、あまいね。」

「うれしいなア。僕等だけで食べやうよ。」

「僕たちだけでたべやうよ。」

蟻のおぢさんは、

「これ、お前たちは、一人でたべるのぢやないんだよ。一人で見つけてもみんなのものなのだ。」

早く、王様にお知らせしてあげてよ。」

蟻の子供たちが、急いで歸つて来ました。入口の番兵にぶつかり乍ら、「大變、大變」と輿にはいつて行きました。

随分、蟻の御殿は廊下がずるぶん長いので、子蟻が、王様のところに申上げるまでにつかれてしまひました。

王様は、けらいにいひつけると、けらいがばた／＼あわてて出て行くのにも入口までにつかれてしまひました。

ぞろ／＼と、蟻の兵隊が一行にならんで、大いそぎ／＼でお菓子の山に進んでゐるのは仲々勇ましいことです。

お菓子の側まで来ると蟻が一ひき／＼驚いて、お菓子を押し見たり、お菓子上つて見たりしました。皆で、とう／＼、かついで歸つたらどうか、といひだしました。蟻のおぢさんは、

「皆、よくきなさい。このお菓子の山は見事だから、このまゝ、王様のところまで上手に引いて歸らうぢやないか。さうしたら王様がおよろこびになる。分つたものは足をあげて。」

と、いひました。蟻は、皆、おぢさんのいふことをきいて、足をあげましたが、長いひげまでうごかして、「賛成」「賛成」といひました。それから、澤山の蟻がお菓子をくわえて引つぱると、

「えんやら。えんやら。わつしよい。わつしよい。」と、ぼつぼつ／＼。お菓子を動かすはじめました。動いたといつてもわづかづ／＼なのです、でん／＼虫のあるくのものも、もつと／＼おそいです。

「わつしよい。わつしよい。」「えんやら。えんやら。」

王様の御殿までまだ大分遠いのにとう／＼、お晝御飯をたべなければなりません。

「わつしよ。わつしよ。」

やつと、御殿まで着きました。入口が小さいのでお菓子くわしの山やまは、仲々なかはいりません。

蟻ありの王様わうさまは、入口いりぐちを大きくして、ころがしこめとおつしやいました。

他の蟻ほのありは、入口いりぐちの土つちをもつて遠方えんぱうにすてに行きました。

せつせ、せつせと働はたらきました。

その間あひだに、お菓子くわしの山やまをこわしては、お腹なかの袋ぶくろに入いれた蟻ありがありました。そつと、とつてゐるのを、お隣そばりの蟻ありがみえてゐて、又、自分じぶんもそつととつてお腹なかの袋ぶくろに入いれました。そのお隣そばりの蟻ありも、そつととつて入いれました。そのお隣そばりの蟻ありも、そつととつて入いれました。そつとそつととつたのですけれども何百の蟻ありがとつたので、お菓子くわしの山やまは小さくなりました。それで、お菓子くわしが大きくなつた入口いりぐちをころがりこんだ時ときに、わけもなくごろ／＼ころがつて、

王様わうさまの前まえまでひとりでころがつて行ゆきました。

王様わうさまは、これを御覧ごらんになつて、おぢさんの蟻ありに「大へん大きい／＼といつたが小さいではないか。」

と、おつしやいました。おぢさんは、「こんなはづはごさいません。」

「私が動かすこともどうすることも出来ない位くらいでした。誰かがどうかしたのでせう。」

と申上まをしました。王様は

「誰たれがこれをとつたのだ」とおたづねになりました。

お腹なかの袋ぶくろがお菓子くわしで一ぱいになつてゐる澤山たくさんの蟻ありは、皆みな

「知りません。」といひました。

王様わうさまは、蟻ありのおなかを指さして、

「この中には何がはいつてゐるのだ。」

「しりません。」

「よし、しらなければ出して見せる。」

と、おつしやつて、力の強い蟻に、お腹をひどく押させました。すると、すつかり、とつてゐたお菓子が出て来ました。皆な押されました。みんな苦しい〜と泣き出してしまひました。すつかり出してしまふと、王様は、

「これは皆のものだから、皆で一しよに仲よくたべなければならぬ。さあ、皆、一しよにたべるんだ。」

皆はよろこんで、たべて、歌つたり、おどつたりしましたが。お菓子ののこりは、お倉にしまつて置きました。

わるいことをした蟻は、王様の前でおなかを押されたのがよほど苦しかつたと見えて、二度と、そつと取るやうなわるいことはしなくなりました。

蟻の行列は、お座敷の庭で、毎日ありますの

で、よく耳をすませてきいてゐると、わいしよい

〜、えんやら〜どこかでいつてゐるのが聞えるやうでなりません。皆さんはお聞になつた事がありますか。おしまひ。 昭和五年七月二日

× × ×

敵討をされた猫君の話

土田 和雄

一、

ヨシ子さんのうちの近處に一疋の猫が住んでおりました。

この猫君、たいへん悪い奴です、ニハトリをひどいめにあはしたり、またお晝時や、夕ごはん時に、お魚の焼けるうまさうなにほひがすると、ふんふん鼻をならしながら、こつそりとお勝手からはいつてきて、お魚をもつていつてしまふのです、まだまだいろんな悪いことをたくさんしま